

日本IT書紀

080 戦略爆撃調査団

05 淹滞篇
卷之十一 地定

佃 均



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細な内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。

戦略爆撃調査団

一

GHQは進駐直後、アメリカ軍がB-29などで行った日本の本土爆撃が日本の産業や社会にどのような被害を与えたかという調査を開始した。首都・東京を爆撃する場合でも、アメリカ軍は占領後に有用な建物や施設を温存した。その効果を検証することに目的があった。

彼らの最大の関心は、長崎と広島に投下したタイプの異なる二発の原子爆弾がもたらした被害だった。連合軍としてともに日本軍と戦った諸国といえども、アメリカはその実態をイギリスやフランス、ましてソ連には知られたいなかった。一般には、「戦略上の理由」とされるが、実はそればかりでなかった。

八月六日にトルーマン大統領が、

「広島に投下した爆弾は、戦争に革命的な変化を与えるものである」

とした声明に対して、ヨーロッパ諸国から非難の声が上

がっていたからだ。た。

一九三五年にインシュタイン博士がアメリカ合衆国に亡命したときから、アメリカが原子爆弾に強い関心を寄せていることは世界の周知だった。同じ研究がドイツでもイギリスでも行われていたが、核融合の原理を理解するにどまったのに対し、アメリカはマンハッタン計画で遂に核爆弾を実現させていた。

八月七日、ローマ法王がアメリカの原爆使用を非難する声明を発表した。これがアメリカにとっては決定的なマイナス要因となった。ローマ法王から公然と非難されるということは、キリスト教世界では破門に等しい。

このためGHQは日本に進駐した直後、すべての新聞、出版物の検閲を開始するとともに、コード規制をもって原子爆弾に関する情報を隠蔽した。被爆者を収容する病院には監視がつけられ、部外者の出入りは医療関係者や家族といえども制限された。

原爆投下から一か月後の九月九日にアメリカ軍が広島、長崎に進駐したのはそのためだった。

調査に当たったのは、「戦略爆撃調査団」の一部隊である。実際にはその一週間前に、現地の治安状況や調査団の本部を設置するために完全武装した先遣隊が乗り込んでいた。同行を許されたオーストラリア人ジャーナリストのウ

イルフレッド・バーチエットが九月三日、
「ノー・モア・ヒロシマ」

のメッセージを世界に向けて打電した。

「世紀のスクープ」の一つといわれる。

一般には、このバーチエット・レポートが広島
の惨状を伝えた最初とされているが、二〇〇二年の六月、スイスの
ジュネーブに本部を置く赤十字国際委員会 (International
Committee of the Red Cross = ICRC) 本部が、四五年八
月三十日の日付を持つ機密文書が発見された。

ICRC 駐日代表部の職員として派遣されたフィリッ
ツ・ビルフィンガーが発信したものであって、原爆投下後
の広島を視察した翌日、惨状を打電した。

ビルフィンガーは「三十日広島訪問、凄惨な状況」のあ
とに、こう続けた。

街の八〇%は壊滅、あらゆる病院は全壊または大損害を
被る。救急病院を二つ視察、状況は筆舌に尽くしがたい。
爆弾の影響は不可解なほど深刻。回復してきたように見え
る患者が突如白血球の変質やその他の内部損傷による致命
的な症状の再発に苦しみ、膨大な数の人々が死んでいく。
推定十万人以上の負傷者がいまだ周辺の救急病院におり、
包帯や医薬品の深刻な欠乏状態にある。市中心部上空から

の即時の救援物質投下を検討するよう肅として連合国最高
司令官に要請していただきたい。大量の包帯、手術用パッ
ド、火傷用軟膏、スルファミド、血漿、そして輸血用器具
が必要。迅速な行動を要す。医療調査委員会の派遣も必要。
報告を添付。受領を確認されたい。

ICRC 駐日代表のマルセル・ジュノーはビルフィンガー
を個人的に好ましく思っておらず、その第一報を引き出し
にしまっておこうと考えたらしい。だが、敬虔なキリスト
者であつて赤十字の職務に忠実なジュノーは

「被爆者は髪が抜け落ち、高熱、下痢にさいなまされて
いる」

「患者に巻かれた包帯は古く、うみがいっぱいたまつて
いる」

「大量の包帯、ガーゼ、医薬品が必要である」
と惨状を訴える至急電を無視できなかつた。

彼はGHQと交渉して大量の医薬品を手配し、戦略爆撃調
査団が広島入りした際、計十五トンの救援物資が届けられ
た。第一報を発したフィリッツ・ビルフィンガーは、十月
二十四日付で十三ページにわたる詳細な報告書をまとめ、
その後、ジュネーブに戻ってから核兵器の使用禁止、核
廃絶運動に従事した。

二

広島、長崎の被害状況をいち早く調べた「戦略爆撃調査団」のことである。

正式な名称は「アメリカ合衆国戦略爆撃調査団」(US Strategic Bombing Survey)である。同調査団はルーズベルト大統領の命を受けて陸軍長官ヘンリー・スチムソンが四四年十一月三日に組織した。「欧州戦域調査団」と「太平洋戦域調査団」の二つのグループがあった。「欧州戦域調査団」の対象がナチス・ドイツであることは言うをまたない。

「太平洋戦域調査団」は文官、陸海軍の士官、下士官兵など一千百五十人からなる大規模な組織で、「総論」「軍事」「経済」「社会」の四グループに分かれていた。彼らは四五年九月に来日して東京に本部を設置し、名古屋、大阪、広島、長崎に支部を設けた。ばかりでなく、太平洋の島々、アジア大陸にも移動調査班を置いて調査に当たった。

軍事研究では日本陸海軍の将官二十六名、佐官六十七名に詳細な尋問が行われ、日本軍の各作戦と戦闘に関する調査を行っている。また経済グループは、戦時中の都市経済や戦時生産の状況についてデータを収集し、米軍の爆撃が

与えた被害状況や住民に及ぼした心理効果なども調査した。そもそもアメリカ軍は欧州戦線では四三年ごろから、太平洋戦線では四四年六月の九州八幡製鉄所爆撃から、「戦略爆撃」という言葉を使うようになっていた。物量にまかせてやみくもに爆撃するのではなく、事前に偵察機で撮影した写真で軍需工場、港湾、発電所、鉄道、都市、住宅などを割り出し、そのプライオリティをつけて爆撃を行うのである。

当初は軍事物資や兵器の生産力を破壊することに主眼が置かれていたが、やがてそれは敵国の人民に与える心理的效果まで計算しつつ、占領後のことを考えて何を温存すべきかに関心が移っていった。将来の軍備計画、戦略などの資料を得ることを考えたのは、もちろん、この戦争に勝利することを確信していたからにはかならない。

同調査団は四五年末までに主要な調査レポートを作成した。彼らが作成した資料を紹介しておく次のようになる。

- ・ 機能的分析および建築物分析報告書
- ・ 直接被害および損害評価報告書
- ・ 写真情報報告書
- ・ 攻撃目標情報シート
- ・ 工業報告書

・ 攻撃目標総合評価および武器勧告報告書

・ 攻撃報告書

・ 攻撃作戦概要

・ 作戦命令書

・ 限定損害解説書

・ 武器効果報告書

・ 攻撃評価報告書

・ 調査報告書

・ J T G (Joint Target Group) 特別調査書

・ 概況、攻撃目標図、地図および航空写真・図

本体をなすのは、「空襲損害評価報告書」である。

個々の報告書のタイトルを見るだけで、どれほど詳細であったかが分かる。敵に与えた被害ばかりでなく、味方航空機の損害状況も調べられた。

対象となったのは対日空爆を専門に行った第二十空軍の被害である。

それによると、

・ 発進基地 中国、ビルマ、インド、マリアナ

・ 発進機数 「B-29」延べ三万三千四十七機

戦闘機延べ六千二百七十六機

・ 損失 「B-29」四百八十五機(損失率一・五%)

戦闘機二百十二機(損失率三・四%)

・ 戦死者数 三千四十一名

・ 戦傷者数 三百三十二名

となっている。

三万三千機以上のB-29が平均二トンの爆弾、焼夷弾を落としたのだから、日本はたまったものではなかった。

それによる非武装市民の死傷者は、東京・広島・長崎・沖縄を別とすると、例えば青森市ですら一千二百七十三人、長岡市二千七百三十九人、浜松市六千五百五十二人、和歌山市六千三百人などを記録している。

三

調査を実施したのは次の各地だった。

〔中国〕

福建、清津、興南、撫順、四平街、錦州、甘井子、鞍山

〔朝鮮〕

平壤、元山、仁川

〔台湾〕

高雄

〔日本〕

北海道…本別、室蘭、輪西、函館

東北…青森、大湊、秋田、土崎、仙台、郡山、福島

北越…新潟、直江津、柏崎、長岡、富山、福井、敦賀、舞

鶴

関東…伊勢崎、熊谷、前橋、宇都宮、太田、小泉、岩鼻、

尾島、銚子、千葉、船橋、日立、水戸、助川、木更

津、霞ヶ浦、甲府、大宮、東京、小金井、上瀬谷、

多摩、日野、厚木、八王子、川崎、鶴見、溝の口、

横浜、大船、藤沢、平塚、横須賀、田浦

中部…沼津、島田、清水、静岡、大井川、浜松、豊橋、豊

川、名古屋、桑名、一宮、岐阜、岡崎、四日市、津、

各務原、玉垣、半田、四日市、可児川、西枇杷島、

大垣、桑名、和地

関西…大津、宇治、京都、宇治山田、茨木、伊丹、大阪、

尼崎、堺、鳴尾、和歌山、木津川、枚方、岸和田、

宝塚、姫路、明石、神戸、西宮、下津、福泉、

中国…岡山、福山、倉敷、呉、広島、宇部、豊後、大竹、

麻里布、江田島、宇和島、宇部、徳山、光、下松、

小野田、笠戸、徳山

四国…高松、徳島、高知、今治、松山、新居浜、三津浜

九州…延岡、佐伯、大分、宇佐、富高、新田原、延岡、鶴

崎、大分、坂ノ市、門司、下関、八幡、戸畑、小倉、

若松、広畑、黒崎、福岡、熊本、大牟田、雑餉隈、

佐賀、荒尾、大刀洗、長崎、佐世保、深江、川棚、

針尾島、大村、八代、出水、都城、延岡、鹿児島、

鹿屋、国分、串良、宮崎

調査は、ある部分は聞き取り調査であったり、写真やカラ
ー映画だったりした。アメリカ軍政部は、中国、満州、朝
鮮半島の航空写真を熱心に撮影した。この情報が五年後の
朝鮮戦争で役立った。また当時はまだ珍しかった総天然色
のカラーフィルムで撮影した街の風景や、六十都市で行っ
た一般市民へのインタビューなどが数多く含まれている。
そうした資料に基づいて、翌四六年一月にアメリカの首都
ワシントンD・Cで『対日戦略爆撃白書』が発表された。

空襲目標情報（陸海軍合同地域調査） [Records of the

U.S. Strategic Bombing Survey Entry 49; Security-Classifed

d Joint Army-Navy Intelligence Studies (JANIS) , 1944-

1945]

空襲目標情報（地域調査） [Records of the U.S. Strategi-

gic Bombing Survey, Entry 50; Japanese Resources Refere

nce Notebooks, 1945]

・空襲・爆撃データに関する諸統計表 [Records of the U.S. Strategic Bombing Survey, Entry 51: Security-Classified Statistical Reports Covering Allied and U.S. Air Forces Attack Data, 1945-1946]

・日本政財界・軍部指導者追尋問記録 [Records of the U.S. Strategic Bombing Survey, Entry 43] [USSBS Transcript of Interrogations and Interrogation Reports of Japanese Industrial, Military, and Political Leaders, 1945-1946]

などがそれであって、アメリカ国立公文書館に百八編の文書が所蔵されている。五十年を経た一九九六年、マイクロフィルム版が一般に公開されるようになり、戦前から戦後にかけての実態が浮き彫りになった。

例えば、日本国民がいつの時点で敗戦を予想したか、という調査がある。

それによると、一九四四年十二月は一〇%だったが、一九四五年三月に一九%に上昇した。しかし全体の八割は、まだ戦争に負けるとは考えていなかった。厳しい情報統制の下での大本営発表が効果的だった。

ところが同年六月になると四六%に跳ね上がり、八月には六八%、約七割の人が諦めていた。B-29の大編隊に

よる爆撃、海上封鎖、艦載機の掃射などが、国民の士気を大きく低下させたことが分かる。

また、日本軍と戦ったアメリカ兵の心理は次のようだった。

「もっと殺したい」四二%

「何とも思わな」二二%

「戦ったのは不幸だった」二〇%

「その他」一六%

戦時中の主要産業の生産力がどのように推移したかということも、調査団は克明に調べ上げた。

〔液体燃料保有量 単位：バレル〕

四四年七月：二八八万一千

十月：二四〇万八千

四五年一月：二二二万八千

〔鋼材供給量 単位：トン〕

四二年：五一七万二千

四三年：五六〇万九千（前年比八・四%増）

四四年：四二三万（二四・六%減）

四五年…四九二万（一六・三%増）

〔一九四五年の船舶事情 単位…トン〕

	新規建造	損失	差引き
一月	八万二千t	二四万九千t	▲一六万七千t
二月	一〇万t	四万一千t	△五万九千t
三月	一一万三千t	一三万三千t	▲二万t
四月	三万四千t	一〇万一千t	▲六万八千t
五月	六万六千t	二〇万四千t	▲一三万八千t
六月	二万二千t	一八万七千t	▲一六万五千t
七月	四万四千t	二〇万九千t	▲一六万五千t
八月	一万二千t	五万二千t	▲四万t

調査を通じて彼らが舌を巻いたのは、日本軍が生産した航空機の数だった。数の多い・少ないではなかった。

中島飛行機、三菱重工業、三菱内燃機、立川飛行機、日本飛行機などに提出させた資料をもとに合計すると、次のような結果が出た。

四四年…二万八一八〇機
四五年…一万一〇六六機

その数字はフランク・マツコイが弾き出した推定値と極端な違いがなかった。多くの軍関係者は、計算機は補給品の計算を迅速・正確に行うためだと考えていた。もちろんそれはそれで間違いではなかったが、統計・分析の結果から数値に裏打ちされた戦略を編み出すという意味が理解されたのはこのときだった。

四一年… 五〇八八機
四二年… 八八六一機
四三年… 一万六六九三機

補注

マンハッタン計画 一九四二年ルーズベルト大統領の決定でスタートした原子爆弾生産プロジェクトで、テネシー州オークリッジで高濃縮ウランの分離、ワシントン州ハンフォードでプルトニウムの生産、ニューメキシコ州ロスアラモスで原爆の組立てなどが行われた。プロジェクトにはアーネスト・ローレンス、アーサー・コンプトン、バーニバー・ブッシュ、ジェームズ・コナントといった当時アメリカ合衆国を代表する科学者、物理学者、数学者などが結集していた。周到な計画立案、機密管理、資金と人員の大量投入など大規模な国家プロジェクトの手法として知られる。

原爆は三個作られ、最初の一個「ガッド・ゲット」はネバダ砂漠での実験に使われ、二個目の「リトルボーイ」が広島に、三個目の「ファットマン」が長崎に落とされた。ちなみにこのプロジェクトに参加したバーニバー・ブッシュが大量の研究資料を的確に保管し活用するためマイクロフィッシュを考案し、その管理手法がこんにちのWeb検索システムの原型となった。

ウィルフレッド・バーチエット Wilfred Burchett / 1911 ~ 1983。オーストラリアのビクトリア州に生まれ、中学を退学して独学でジャーナリストになった。第二次大戦ではイギリスの特派員としてヨーロッパ戦線に従軍し数多くの特ダネをものにした。四五年九月、アメリカ合衆国陸軍の特派員として日本に派遣された。のち「タイムズ」誌特派員となり、朝鮮戦争、中国共産革命、ベトナム戦争を報道した。《ノー・モア・ヒロシマ》のレポートは「原爆禍——私はこれを世界への警告として書く」で始まっている。

る。

フィリッツ・ビルフィンガー Fritz Willinger

マルセル・ジュノー Marcel Junod / 1904 ~ 1961。彼とマルセル・ジュノーの功績を称え、二〇〇二年六月十六日、広島市の平和記念公園にあるジュノー顕彰碑前でジュノー記念祭が開催された。ビルフィンガー・レポートはジュネーブのICRCに保管されていたが、広島原爆資料館第十代館長・畑口実（1946 ~ / 在任…1997 ~ 2006）の要請で同資料館で一般に公開された。

日本IT書紀 080 戦略爆撃調査団

著 者：佃 均

発行者：（特非）オープンソースソフトウェア協会

<http://www.ossaj.org/>

info@ossaj.org

発行日：2023年4月10日

本作品は2004年-2005年ナレイ出版局より刊行された「日本 IT書紀」全5分冊を底本とし、原著者が一部改定を加えたものを複数の電子書籍に再構成して CC-BY-NC-ND ライセンスにより公開します。



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細な内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。